

## 茶道の力、お抹茶の持つ力

松山市立雄新中学校二年（愛媛県）

### 河端 杏理

二〇二〇年、新型コロナウイルスが流行し始めた頃、日本中の学校が突然休校になった。私はその年の春に小学校を卒業し、中学校に入學した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、入学後も休校が続く、楽しみにしていた部活動は一か月以上できなかつた。自宅待機をしているとき、どの部活動に入るか悩んだ結果、私は茶道部に入部することを決めた。

学校が再開されて、ようやく部活動に参加できる日がやってきた。私は初めて茶道を体験した。三年生の先輩が静かにゆっくりとした動作でお茶を点ている様子を正座で見学していると、不思議と気持ち引き締まってきた。私は茶道について何の知識も経験も無かつたが、「今日から、この茶道部で頑張ろう。私も早くこんな風に、誰かのためにお抹茶を点てることができるようになりたい」と思った。その後、二年生の先輩に教えてもらいながら、初めてお抹茶

茶を飲んだ。緊張のあまり手が震えて味は分からなかつたが、気持ちがほっとしたのを覚えている。

その後、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、文化祭が中止になり、茶道部のお茶会行事も次々と中止になった。お世話になった三年生の引退も早まって、悲しいことが続いた。

二年生になり、私にも後輩ができた。一年前の私と同じで、茶道のことを何も知らない後輩ばかりだ。一年前の私にとつて、先輩は憧れの存在であった。今、私が後輩から「先輩」と呼ばれている。呼ばれる度に照れくさく思うとともに、あれから一年が経つたのだと改めて感じる。初心者だった私が、今ではお点前の作法を身に付けて、後輩に教えることができるようになったのだ。

私は七月に十四歳になった。今年の誕生日プレゼントに、茶碗や茶筌などの茶道セットを買ってもらった。家でも母にお抹茶を飲んでもらうためだ。母は福祉施設で働いている。お茶には、疲れを癒やしたりストレスを和らげたりする効果があると聞いたことがあるので、コロナウイルスと闘いながら高齢者のお世話をしている母の疲れが少しでも癒えるように、家でもお抹茶を点てたいと思ったので誕生日に買ってもらった。早速母に飲んでもらった。おいしいよ、お抹茶を飲んだら仕事の疲れがとれた」と言ってくれた。私が点てたお抹茶が母の役に立ったのだと感じて

とても嬉しかった。

コロナ禍で、今まで普通にできていたことができなくなり、世の中にはストレスを抱えている人や疲れた人がたくさんいる。そういう人達に、ぜひお抹茶を飲んで心を潤してほしいし、そういう機会が増えるといいなと思う。一年前、初めてお抹茶を飲んだ時、「誰かのためにお抹茶を点でて、飲んでもらえるようになりたい」と思ったことを、今改めて思い出している。茶道の力、お抹茶の持つ力は大きい。私は、茶道を通して誰かの役に立ちたいと思う。そのような気持ちでこれからも精進していこうと思う。